

「ネオニコチノイド系及びフェニルピラゾール系農薬の地下水、水道水中での検出」に関わる緊急提案

宮古島市企画政策部エコアイランド推進課長 下地 洋子殿

宮古島地下水研究会 共同代表 前里和洋 新城竜一 友利直樹

私達宮古島地下水研究会は、昨年5月「エコアイランド宮古島推進計画」及び「エコアイランド宮古島宣言 2.0 ゴール（目標）の設定」に於ける地下水保全に関わる課題について、市長に対し意見書を提出しました。

10か月経過する現在、意見書に対する応答がなく、遺憾です。地下水保全は、持続可能な島づくりの最重要課題です。宮古島市では10年前から、浸透性農薬であるネオニコチノイド系及びフェニルピラゾール系農薬が、耕作面積当たりで、日本で最も多く供給され使用されている。これらの農薬は、**有機リン農薬と同様ヒトへの発達神経毒性を有し胎児や小児の脳に影響を及ぼす可能性あり**として、**予防原則のもとにEUや米国、韓国、台湾では、使用禁止・規制となっている**。一方、日本では、規制がゆるくこの20年で、倍以上も供給量が増加している。行政の指導や補助金もあり宮古島市も例外ではなく、驚くべき供給量である。ネオニコチノイド系農薬使用量がこれだけ増加しているにも拘わらず、水道水質管理目標設定項目にすら入っていない。市の独自の地下水中農薬測定項目は、現在使用実績の少ない有機リン系農薬等が中心である。ネオニコチノイド系農薬は、測定項目入っておらず、地下水への浸透状況は不明である。私達宮古島地下水研究会は、ネオニコチノイド系及びフェニルピラゾール系農薬の地下水、水道水、農業用水中濃度を、予備調査も含め、3回測定・分析を行った。その結果、10か所中9か所で、ネオニコチノイド系及びフェニルピラゾール系農薬3種類以上が検出された。5種類以上検出され濃度総量が、100ng/L以上が5か所もあった。**驚くべきことに、下里の水道水では、クロチアニジン（ダントツ）21.7ng/L、ジノテフラン（スタークル）21.2ng/L、フィプロニル（プリンス）2.3ng/L 合計 45.2ng/L 検出された（図1）**。化学農薬による水道水・地下水の広汎な複合汚染を示唆する結果であった。これらの農薬の慢性暴露により**自閉症スペクトラム障害**の発症リスクとなることが明らかになってきた。たとえ微量であっても、毎日飲用する水道水で検出された3種類の農薬成分の相互作用により、胎児への複合毒性が高まる可能性があり、健康影響が懸念される。私たちの最新の調査で、クルマエビが全滅した養殖池において、複数のこれらの農薬が残存飼育水や底砂から検出された（図2）。クルマエビはこれらの農薬の毒性成分に感受性が高いことが報告されている。クルマエビ全滅に複数の農薬成分の関与が強く疑われる。「沈黙の春」や「水俣病」で学んだヒトへの健康影響の警鐘と捉えるべきだ。農薬管理の基礎となる考えは、「**予防原則**」である。化学農薬の使用量が多く、地下ダム止水壁により自然の水循環による浄化機能が減弱している現状は、**化学農薬による地下水複合汚染を引き起こす環境にある**。子や孫への**健康影響が懸念される**。これらの農薬の使用を推進してきた行政の責任として、下記の項目の速やかな実施を提案する。

記

1. 「水道水での複数農薬検出」という緊急事態に関し、市長、農林水産部、上下水道部、エコアイランド推進課、環境衛生課、宮古島地下水研究会参加による Zoom ミーティングの早期開催を要望する。
2. 「エコアイランド宮古島推進計画及びエコアイランド宮古島宣言 2.0 ゴール（目標）の設定に於ける地下水保全に関わる課題」についての回答を要望する。  
2週間以内に、要望に対する返事を下記にいただきたい。

宮古島地下水研究会連絡先：共同代表 友利直樹 [tomorint@gmail.com](mailto:tomorint@gmail.com) 042-388-2678

事務局 平良雅則 [qqh47349k@rondo.ocn.ne.jp](mailto:qqh47349k@rondo.ocn.ne.jp)

【参考資料】

図1. 宮古島の地下水・農業用水・水道水中ネオニコチノイド系及びフェニルピラゾール系農薬濃度(ng/L)

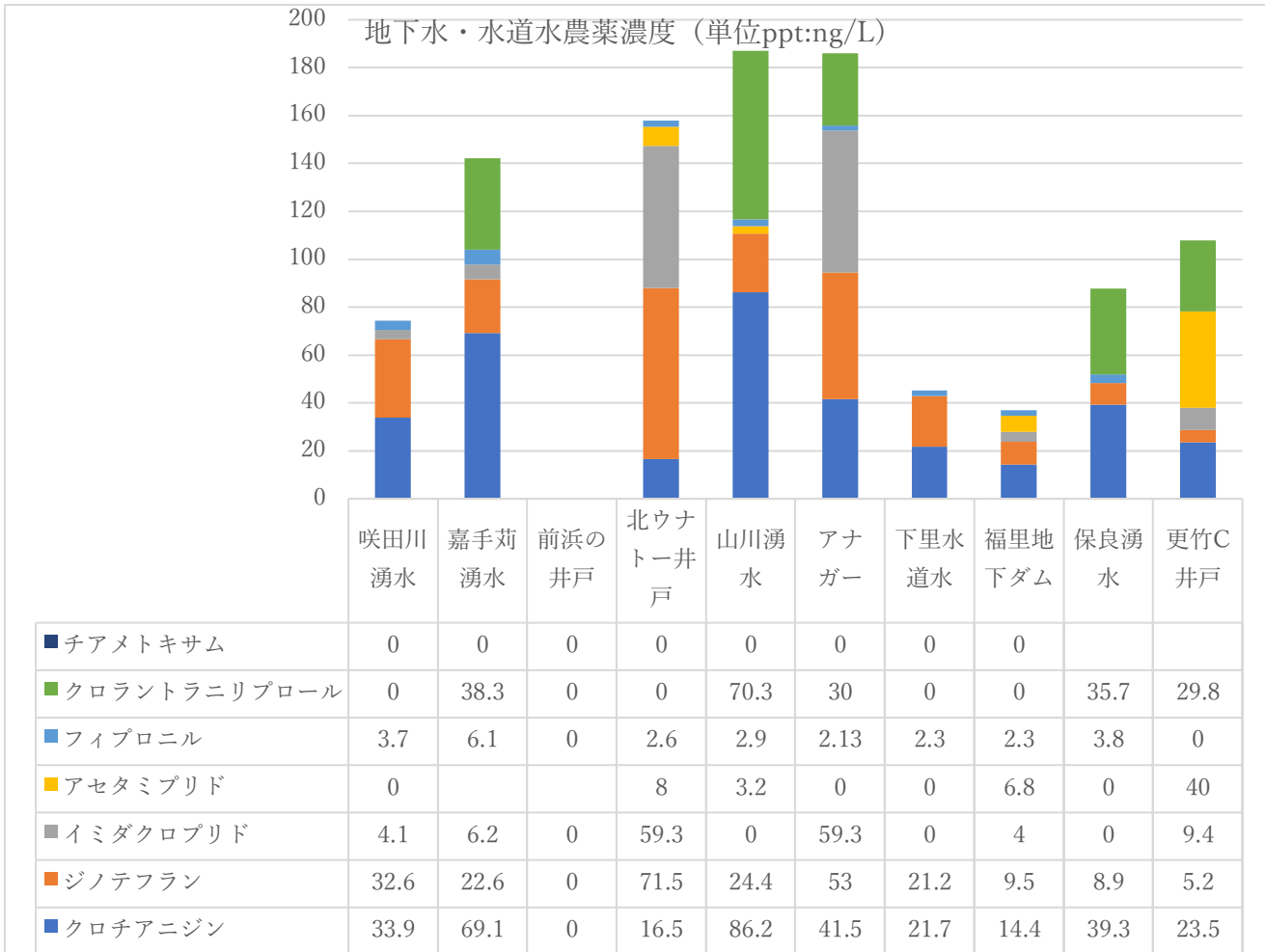


図2. 養殖場施設内ネオニコチノイド系及びフェニルピラゾール系農薬濃度(ppt: ng/L)

